



「子どもたちの言葉や言葉環境について」

園長 小林 晶子

新年明けましておめでとうございます 本年もどうぞよろしくお願ひいたします

今年度は開園15周年を祝う様々な行事や階段アート作り等の活動を行ってきましたが、最終の行事として、2月13日（金）・14日（土）には展覧会を実施します。「開園15周年おめでとう」をテーマに、発達に応じた素材や技法等を用いた絵画や製作を楽しみ、作品として展示予定です。会場に足をお運びいただければ幸いです。

また、1月23日（金）には、園のチーム力や保育の質を組織的に高めるために取組んできた園内研究の実践を、区内乳幼児施設の保育者や学校関係者等を対象に発表会※を行います。保護者の方にもご出席いただけますので、可能な方には本園の取組をお聴きいただきたいと存じます。

※発表会についての詳細は《お知らせ》欄をご覧ください。

乳幼児期は、「言葉」を獲得する重要な時期です。0歳児の子どもが、親しみを感じたり興味をもったりした人やものを懸命に指差しや発語で表すと、我々大人は喜び、子どもが何を表しているのかを分かろうとします。何でも知りたがって「あれ何?」「なんで?」と聞いたり、「自分で!」と主張したりする時期には、大人側にゆとりがないとなかなか一つ一つに丁寧に対応できない経験をおもちの保護者の方も多いのではないでしょうか。また、だんだんに感情が豊かになり語彙も増えて4・5歳くらいになると「どこで覚えたの?」と使ってほしくない言葉を言って驚くことがあります。

気持ちや考えを表すために大切な「言葉」について、12月の4・5歳児の2学期終業式の中で考え方をもちました。絵本『ちくちくとふわふわ』(絵と文:なないろ、監修:松本えつを、発行:CHICORA BOOK) やイラストをスクリーンに映し出しながら、言われて嫌な気持ちになる言葉と、うれしい気持ちになる言葉、言った人の気持ち、言われた人の気持ちを考え合いました。子どもたちは、言われて嫌な言葉とうれしい言葉をしっかり区別できていました。また、「あっち行って」「大丈夫?手伝おうか?」等いくつか具体的な言葉を取り上げながら、その言葉を言われた人の気持ちを聞くと積極的に答えていました。嫌だなと思う言葉を言った人の気持ちを考える質問に対しては、「怒っている」「イライラしている」という答えでした。「人が嫌がる言葉を使うことで、それに相手が反応することが面白い」とか、「聞き覚えた言葉を使ってみたい」等の様々な気持ちや状況が影響していることには思いが及ばないようでした。

のことから、子どもたちは言われると嫌な言葉、うれしい言葉を理解していることが分かります。また、その時の相手の状況や気持ちの在り方については、その場で身近な大人が補いながら知らせることが必要な場合も多いことも分かりました。

子どもたちとの話し合いの最後に、「嫌だなとか悲しいと思う言葉を言われたらどうする?」の問い合わせると、子どもたちは「先生に相談する」や「その子が落ち着いたら、『嫌だったよ』と話す」と答えていました。よい方法であることを認め、「嫌だな」と思ったまま我慢しないでほしいことを伝えました。

園では、まずは自分の気持ちを先生や友達に表せることを大事にしています。その上で、どのような表現をすることが望ましいかを、子ども同士のトラブル場面等を捉えて伝えたり考え合ったりしています。また、適宜学級や学年、行事等の集会を利用して、絵本やイラスト等を使って子どもたちに理解しやすくしながら考え合うことで意識づけています。

ご家庭でも、お子さんがどのような言葉を遣っているかに着目して、「その言葉、うれしいな」「こういう言葉で言うと相手に伝わるかも」と伝えてみるのはいかがでしょうか。

まずは、園の職員とさらには保護者の方とも、子どもたちにとって望ましい言葉環境をつくりたいと考えます。子どもたちの言葉について何かお気付きのことがありましたら、担任や職員室にお知らせください。

«CES掲示板»

- 身近な冬の自然物に触れたり、取り入れて遊んだりする。
- 身の回りの整理整頓をしよう。



テラスで落ち葉のプールやイチョウに触れて感触を楽しんでみたり、器の中に落ち葉を入れてまたごと遊びを楽しんだりしました。



保育者が片付けている姿を見たり、「内内できるかな?」と声をかけたりすると、玩具を棚にしまおう鳥栖る姿が見られました。できると手を叩いて喜んでいました。

☆1月の重点目標☆

『季節を感じながら行事食を楽しもう』

おせち料理

1月の給食ではおせち料理にも入る『大根と人参の甘酢あえ(なます)』『松風焼き』がメニューとして登場します。おせち料理には、その料理一つ一つに願いが込められており、『なます』には、赤と白で縁起がよく、紅白の水引に見立てられて作られています。“一家の平和と平安を願う意味”が込められています。また、『松風焼き』は、表面にケシの実などを飾り、裏には何もつけないことから“裏のない隠し事のない正直な生き方”を表し、“今年一年、まっすぐに生きていきましょう”という願いが込められています。食事の際に、子どもたちにもわかるように意味を伝えたいと思います。

七草粥

春の七草には、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロが含まれています。1月7日に七草粥を食べることで、「正月の飲食で疲れた胃を癒し、冬に不足しがちなビタミン類を補給する」という意味があります。こども園では、おやつで「七草おにぎり」として登場します♪引用:『なぜなぜクイズ絵本 1月のふしぎ(チャイルド社)』

『ペーパーレス化』

千代田区では、「千代田区DX戦略(デジタル技術を活用し、区民の利便性と職員の生産性を向上すること)」と連携し、ペーパーレス化、オンライン会議等の省エネ行動を推進しています。

ふじみこども園では、“園だより”や“全年年だより”等を“すぐーる”や“HP”にて配信する取り組みをすることで、ペーパーレス化に取り組んでいます。また、日頃遊びで使っている紙について子どもたちと、「まだ使えるかな?」と取っておいて製作に使う等大切にしながら使うようにしています。

ご家庭でもお子さんと大切な資源を「まだ何かに使えるかな?」と考え合ってみるのはいかがでしょうか?